

第3章 訓練終了後のアンケート結果

原子力防災訓練を踏まえたアンケート等の結果について

1. はじめに

令和元年度の原子力防災訓練を踏まえ、次年度以降、より効果的・実践的な防災訓練となるよう、また、運営の改善に資するため、訓練参加者（自治体、関係機関、参加住民）に対し、アンケート等を実施し、その結果を取りまとめたものである。

2. 主な意見（寄せられた意見の詳細は別紙参照）

<訓練企画・統制全般>

各訓練の調整の進捗状況が共有されていない、また、全般的な調整に係る統制がなされていないという意見があった。

より訓練を充実させるためにも、総括的な統制・進捗管理のもと、各訓練が実施されるべきものであると思われる。

<原子力防災訓練全般>

訓練を通じて災害のイメージを持つことができたという意見があった反面、具体の動きがわからないという意見もあった。

また、訓練に参加する関係機関を増やしてほしいという意見や、住民参加をさらに促してほしいという意見があった。

そのほか、訓練の開催時期・日程、内容・あり方に関する意見も多くみられ、今後の訓練を検討する上で参考とすべきであると思われる。

<住民防護措置訓練>

屋内退避、一時移転訓練については、日程、訓練実施地区への意見も含め、住民参加のあり方に係る意見が多くみられており、次年度以降の検討課題であると思われる。

また、訓練自体が訓練のための訓練になっている、実災害時の状況が想定されていないとの意見もあり、訓練実施方法についてもさらなる検討が必要であると思われる。

安定ヨウ素剤配布訓練については、模擬の安定ヨウ素剤は実物に近いものが望ましいという意見のほか、他市町村の訓練を視察をしたり、継続実施することで理解が深まるとの意見があり、参考としたい。

避難行動要支援者搬送については、避難行動要支援者の支援をする職員の知識・経験不足や乗用器具の不足を指摘する意見があり、本訓練のみならず平時から準備しておく必要があると思われる。

<地域住民、施設等への情報伝達訓練>

住民への情報伝達訓練では、防災無線が聞こえないという意見とともに、毎年同じ方法による訓練であることに疑問を感じる意見もあり、情報伝達の方法の多様化、マンネリ化を防ぐための方法などを検討する必要があると感じた。

<原子力災害対策本部運営訓練>

オフサイトセンターとの連携訓練の必要性や、ブラインド形式での訓練実施を求める意見があったが、参加者の知識・経験に応じ、適切な形態で訓練を実施するとともに、段階的なレベルアップを図ること

で実効性を確保できるものと思われる。

<避難退城時検査・簡易除染訓練>

訓練参加者の編成やシナリオ、コントローラーの役割等、訓練の企画・統制の改善を求める意見が見られた。

また、今回訓練を実施した関根浜港における動線に問題点や、スペースの狭さを指摘する意見のほか、実災害に当てはめた場合、訓練どおりには進めることができないであろうという意見もあった。

そのほか、資機材の管理、運用に係る改善を求める意見があった。

<傷病者搬送訓練>

課題抽出を主な目的としていたため、様々な課題が意見として出された。

企画・統制側の問題としては、原子力施設立地地域外の消防機関の参加の必要性や、評価者の不在、訓練想定に係る意見などがあった。

訓練の実施内容については、傷病者搬送先の調整・決定に係る問題や異なる消防本部間での引継ぎ・連携に係る問題点、現場での役割分担の問題点等が意見として出され、今後検討が必要な項目であると思われる。

<傷病者搬送・受入訓練>

災害時の対応のイメージができたという意見があった反面、災害想定やシナリオの事前説明不足でよくわからない部分があったという意見もあり、参加者は共通認識のもと訓練を実施する必要性が感じられた。

資機材の充実や、レイアウト・動線の改善を求める意見のほか、会場となった八戸市民病院において、訓練場所と一般の来院者とが自由に行き来できる状況は好ましくないなどの意見があった。

<緊急時モニタリング訓練>

活動のための資機材の活用・充実に係る意見が見られたほか、訓練内容・訓練実施体制の改善を求める意見が見られた。

<その他>

今年度中止となったオフサイトセンター運営訓練（図上訓練）の必要性に係る意見が多くみられた。

機能班を対象とする訓練については、内閣府が実施する図上訓練を活用しつつ、オフサイトセンター運営訓練のあり方については、今後検討が必要であると考えます。

番号	訓練項目	内容
1	訓練企画・統制全般	・各訓練の調整進捗全体を把握できている者がいない。
2	訓練企画・統制全般	・スケジュールがどんどん遅れていき、最後帳尻合わせになってしまった。
3	訓練企画・統制全般	・チームとして機能していない。 ・そもそも、チームとした理由がよくわからない。 ・チームを編成したことで、前年度と何が異なるのかよくわからない。
4	訓練企画・統制全般	・調整が相手方任せで、当課が主体的に調整をしていない訓練が見受けられた。（そもそも調整とは言えない状況）
5	訓練企画・統制全般	・今後の訓練に向けた提案として、事前に担当者の方の連絡先を訓練参加者へ周知する必要があると感じました。訓練が想定よりも遅れて進行することは致し方ないことでありますが、訓練の進行具合や配置時間の変更の有無等の確認を担当者がいない現場で行うことができなかつたので、担当者又は現地本部等の進行状況を確認できる連絡先を周知していただければと思います。又は進行状況を周知していただきたいと思います。
6	原子力防災訓練全般	・訓練に参加したことで、原子力災害に対するイメージを持つことができたが、活動が担当した部署に限定される。関連する他の部署との連携が多々あるが、全体の流れや他の部署の動きがよく分からないため、機会があれば訓練に参加し、有効な対応ができるよう努めていきたい。
7	原子力防災訓練全般	・県内消防相互応援協定を適用し、他の消防本部も訓練に参加させるべきだと思う。
8	原子力防災訓練全般	・全体の動きが今一つ不明瞭なため、災害発生直後の初動訓練を行いたい
9	原子力防災訓練全般	・机上訓練をしてからの実動訓練。
10	原子力防災訓練全般	・訓練に関する希望は特にないが、対応習熟のための繰り返しの訓練が必要と考える。また、誰でも対応できるよう、対応マニュアルの整備及び関係者への展開も必要と考える。
11	原子力防災訓練全般	・県のみならず、国や他県を含めた実動訓練も必要と考えます。また、参加住民の規模をもっと多くし実災害を想定した訓練を実施してみたり、実施時期を冬季にするなど、様々な条件を想定した防災訓練を計画的に実施する必要があると考えます。
12	原子力防災訓練全般	・例年、同じような時期に行っているため、夏や冬の想定もあってもいいのかもしれないと思った。
13	原子力防災訓練全般	・今年度中止となった、OFC 運営訓練を実施できたらいいと思う。また、多数の住民へ協力依頼及び参加できるように、土日に訓練を開催するのもいいかと思う。
14	原子力防災訓練全般	・近年の訓練では初動対応（警戒事態～施設敷地緊急事態）が省略されているため、災害時に非常に重要である初動対応訓練を実施すべきと考える。（個別訓練でもよい）
15	原子力防災訓練全般	・現状では、一般災害の防災訓練と原子力防災訓練を別々で実施しているが、原子力防災訓練については複合災害が前提のシナリオとなっているため、1日（できれば休日）を通して複合災害（地震・津波・原子力災害）に係る訓練として実施した方がより多くの防災関係者、一般住民の参加が可能となり、より実効性の高い防災訓練になるのではないかと思う。
16	原子力防災訓練全般	・サイト内でフィルタベントを実施する際、住民避難状況を踏まえて実施する必要があるが、住民避難状況の確認作業をシミュレーションしてはどうかと思う。
17	原子力防災訓練全般	・職員にもっとどういう行動をしなければならないのかを研修した方が良く思う。

番号	訓練項目	内容
18	原子力防災訓練全般	・警戒区域の住民へ、統一した防災用の巾着のようなものを提供すれば住民の防災意識も向上すると感じます。
19	原子力防災訓練全般	・原子力災害発生時の住民避難、住民への正確な情報の提供・伝達手段の確保、移動方法の確保等、混乱している住民への的確な対応が短時間でできるか不安はあるが、様々な想定の下訓練を積み重ね、不確定な部分をなくしていくようにしたい。そのためにもより多くの訓練参加の機会があれば良いと思う。
20	原子力防災訓練全般	・今回初めて訓練に参加したが、様々な機関の動きを見て連携する訓練であり、どう行動するかを考えさせられるとても身になる訓練であった。
21	原子力防災訓練全般	・訓練を継続することによる、対応力向上を望みます。
22	原子力防災訓練全般	・訓練について、繰り返し、多くの関係者が参加することが大事と感じました。
23	原子力防災訓練全般	・住民避難の円滑な実施のため、関係市町村における状況把握と調整等（避難地区、避難対象者数、避難手段など）を行えるよう、統合原子力防災ネットワーク上に、統一かつ統合した避難支援システムを構築するなどの対策が必要であると考えます。
24	原子力防災訓練全般	・近年のスマートフォンの普及を踏まえ、住民に対して避難に必要な情報等を提供できる避難支援アプリなどを整備提供すべきと考える。
25	原子力防災訓練全般	・近年の行財政改革などにより、市町村職員数は年々減少し、市町村職員のみでは住民避難等への対応が困難になりつつあることを踏まえ、青森県を含めた防災関係機関の人的応援について検討をお願いするとともに、当該応援要員を含めた訓練の実施をお願いしたい。
26	原子力防災訓練全般	・市町村における担当職員は少数かつ兼務者が多いことから、打合せ会議等の開催方法等について配慮をお願いしたい。
27	原子力防災訓練全般	・原子力防災と一般防災の考え方、特に職員の配置に係ること（複合災害である場合のどちらの災害として動くかの優先事項）等、整理の必要がある。県が関係する大枠の話ではなく、村単独でできることだと思えるので、できることから始め、職員の防災意識を高めたい。
28	原子力防災訓練全般	・なんかマンネリ化しているような・・・ ・訓練している方々も緊張感が薄れているような・・・ ・まあ、ほぼほぼ大丈夫なんじゃないのかな・・・という感じはある
29	原子力防災訓練全般	・村外への避難は、自家用車が基本となっているが、村外からの通勤者も相当あり、通常時でも帰宅時間に渋滞していることから、日中の避難の際に村民に加え通勤者も避難することになり、渋滞により避難行動に支障が出ることも想定した誘導體制を検討する必要があるのではないかと。
30	原子力防災訓練全般	・毎年、4地区（むつ市内、大畑、川内、脇野沢）で実施しているのであれば、実施する場所の庁舎の職員を訓練にもう少し参加させるべきだと思う。実施訓練に参加できない職員に関しては、何してるの？感じで、訓練の内容についてもわからない。もし災害があった場合、初動対応等するのは地域の職員だと思うし、訓練等の経験がなければ素早い対応ができないと思う。
31	原子力防災訓練全般	・時間があれば、訓練を視察・参観できればよいと思う。
32	原子力防災訓練全般	・災害発生から収束の間で、一部の関係を重点的に実施する訓練。
33	原子力防災訓練全般	・県や市町村、関係機関が個別に訓練計画を立てるのではなく、原子力防災訓練全体のテーマ、計画を立て、これをベースに、各々の訓練計画も立てるようにした方がよいと思う。

番号	訓練項目	内容
34	住民防護措置訓練 (全般)	・実際にUPZ圏内全市町村での避難場所（青森市、弘前市）へ移動する避難訓練を行った方がよい。
35	住民防護措置訓練 (全般)	・原子力防災訓練については住民の一部だけではなく、町内会単位でも定期的に行ったらどうかと思った。
36	住民防護措置訓練 (全般)	・避難する住民に対する確認行動について、行政がいきなり行うことより住民同士（お隣さん）が確認しあう方がよいのでは・・・
37	住民防護措置訓練 (全般)	・一部地域ではなく、町民各地域ごとに防災訓練をしたら町民の防災意識が高まると思います。
38	住民防護措置訓練 (全般)	・一人暮らし、老人たちで訓練に参加できていなかった。
39	住民防護措置訓練 (全般)	・各市町村の避難計画に記載されている「避難住民の荷物への汚染防止の配慮」、「避難住民の服装への配慮」が実施されておらず、住民の知識の習熟等に資するとは言い難い。
40	住民防護措置訓練 (全般)	・UPZ住民の一時移転の状況にも関わらず、対応する職員等は防護装備の装着はしておらず、一時集合場所等の空間放射線量率の測定等も実施されていない。
41	住民防護措置訓練 (全般)	・参加住民数が判明しているため、当該人数に合わせた「訓練用」の会場配置になっており、実際の状況下で対応可能か疑問。
42	住民防護措置訓練 (全般)	・一般町民の参加が年々減少傾向にある。町民がもっと参加したくなる訓練内容を考える時だと思う。
43	住民防護措置訓練 (全般)	・日程を公表せず、抜き打ちでも訓練の実施など。
44	住民防護措置訓練 (全般)	・訓練をして、実際に原子力災害が起こることが不安だと思ったと住民から意見があった。
45	住民防護措置訓練 (全般)	・時期がいつも同じように思える。1・2月の冬期や6・7月の梅雨時期など今回の気候状況が違くと気に動けるのか不安であるため、今後やっていただきたい。
46	住民防護措置訓練 (全般)	・住民より、もう少し温暖な気候（9～10月）に実施して欲しいとのご意見があった。
47	住民防護措置訓練 (全般)	・今回、メインとなるヘリの離着陸訓練が災害対応のため中止となった。今後は比較的災害の少ない時期に実施することも必要ではないか。
48	住民防護措置訓練 (全般)	・夜間の想定。
49	住民防護措置訓練 (全般)	・訓練日を固定すれば、訓練に参加しやすいのでは。原子力日よりAEの原子力防災訓練を訓練日直前に掲載や屋内退避時のとるべき行動等の特集した冊子があれば防災意識を醸成すると思う。（訓練に参加できない人に向けて）
50	住民防護措置訓練 (全般)	・原子力事業者から事故の様子がどのように伝わるのか分からないため、危機感が薄い。事業者も含めて実施するのがよいのではないか。
51	住民防護措置訓練 (全般)	・実際に被災した場合、対象地域に生活する住民の実態と就労場所として勤務する方の実態があまり反映されていないように感じた。勤務者が避難の詳細を理解しているか（少なくとも雇用者側の理解）、避難手順をスムーズに実施できるかの確認が必要かと思うので、今後の訓練等において事前把握をし関係機関で共有した方がよいのではないかと感じた。
52	住民防護措置訓練 (全般)	・もっと早い時期に訓練ができればよいと思う。

番号	訓練項目	内容
53	住民防護措置訓練 (全般)	・会場の設定、レイアウトについて講習を受けましたが、レイアウトから講習参加者へ考えることが、非常に防災意識を高めていると感じた。訓練時間についてはちょうどいい感じなので、全職員が受講をした方がいいと考える。
54	住民防護措置訓練 (東通村)	・避難者名簿の作成や避難者カードの記載・配布は省略されていた。
55	住民防護措置訓練 (東通村)	・体育館のレイアウトも参加住民への安定ヨウ素剤の配布のみ想定しているものであり、実際の配置を検討した様子は感じられなかった。
56	住民防護措置訓練 (東通村)	・実際に避難住民が青森市等の避難所まで移動する訓練も近年実施していないため実施したい。
57	住民防護措置訓練 (むつ市)	・急な訓練内容の変更を教えて欲しかった。
58	住民防護措置訓練 (むつ市)	・県担当者同士の連絡や打合せ不足を感じられた。県から急な訓練の変更があり、住民から少し苦情があった。
59	住民防護措置訓練 (むつ市)	・「訓練内容がわからない」との声があった。
60	住民防護措置訓練 (野辺地町)	・住民に避難者カードを記載させていたが、老眼鏡がなく不便そうであった。 ・高齢の住民に複写式の避難者カードを記載させていたが、筆圧や記載欄のサイズなど、記載しづらそうな様子であった。 ・記載例など準備していなかったため、書き方など町職員への質問の順番待ちをしている住民がいた
61	住民防護措置訓練 (野辺地町)	・目ノ越集会場にスロープがないことから、車いすの方が来た場合、支障をきたす可能性がある。
62	住民防護措置訓練 (野辺地町)	・大きな災害があったとき消防組織が一集落に張り付いて対応できるのか？もっと自助、共助の考え方の徹底とかが必要。
63	住民防護措置訓練 (野辺地町)	・住民避難場所へ直接来ないで、避難する住民への対応を想定した訓練も必要と思う。
64	安定ヨウ素剤 緊急配布訓練	・模擬の安定ヨウ素剤については、もう少し実物に近い形状のものを準備してもらいたい。特に高齢者は混乱を生じている可能性がある。
65	安定ヨウ素剤 緊急配布訓練	・実際に東通村で行っている安定ヨウ素剤配布の現場を見ること、もしくは体験することが出来れば、安定ヨウ素剤配布についての理解も深まると思われる。
66	安定ヨウ素剤 緊急配布訓練	・安定ヨウ素剤配布訓練も2年目になり、徐々に住民の知識が定着していくと思われる。継続実施できれば良いと思う。配布訓練の場に一般職員も配置されることで、職員の意識向上にもつながると思う。
67	避難行動要支援者 搬送訓練	・一部参加者が、車いすやストレッチャーを使用する際の注意点の理解がないまま参加していた。
68	避難行動要支援者 搬送訓練	・ストレッチャーへの移乗用具が配備されていなかった。
69	地域住民、施設等 への情報伝達訓練	・里地区の防災無線が聞こえないとの指摘があった。
70	地域住民、施設等 への情報伝達訓練	・広報無線は聞こえない。(高齢者)
71	地域住民、施設等 への情報伝達訓練	・何年か同じ方法で訓練をした。時に違う方法で行ってみるのは・・・ ・放射能の怖さ、考え方を理解してからの防災に対する知識を考えるなど。

番号	訓練項目	内容
72	地域住民、施設等への情報伝達訓練	・毎回、想定する訓練の状況を変えて対応力を養うことが必要であると思います。
73	地域住民、施設等への情報伝達訓練	・実施日について、平日ではなく休日の方がスムーズにできると思う。
74	地域住民、施設等への情報伝達訓練	・今回、施設等への情報伝達訓練に参加したが、伝える内容が複雑で長い ため、短く分かりやすいようにした方がよいと感じた。
75	地域住民、施設等への情報伝達訓練	・情報伝達として関係機関へFAX送信したが、複合災害等によりFAX送信できない場合の代替はあるのか。他の伝達方法も検討すべきと思った。
76	原子力災害対策本部等運営訓練	・市町村とオフサイトセンター等に設置された災害対策本部との連携訓練。
77	原子力災害対策本部等運営訓練	・災害対策本部のシナリオレス訓練。
78	避難退域時検査・簡易除染訓練	・検査場所から車両保管場所までの汚染車両と非汚染車両の動線が同じであったため、非汚染車両も汚染するおそれがあった。
79	避難退域時検査・簡易除染訓練	・海路避難の住民の方々の移動経路と車両通行経路が混在していた。
80	避難退域時検査・簡易除染訓練	・タイベックスーツと靴カバーを装着したが、室内用靴カバーしかなかったため、すぐに破れてしまった。
81	避難退域時検査・簡易除染訓練	・車の汚染確認班を担当。車に汚染があった場合は、代表者が身体サーベイを受けることとなっていたが、その結果、駐車場に10台ほど溜まってしまったことがあった。実際の事故時には駐車場が一般になり大渋滞が発生する可能性がある。
82	避難退域時検査・簡易除染訓練	・装備を着装する際、資材がどこにあるか分からず戸惑った。また、サーベイメータが準備されていたので、持って行ってよいか確認したが、結局確認は取れなかった。除染資材も同様。
83	避難退域時検査・簡易除染訓練	・サーベイメータや資材を置く机がなく、結局汚染されている可能性のある地面に直接置くこととなった。
84	避難退域時検査・簡易除染訓練	・シナリオ通り進めることに頭がいっぱいで、避難に来られた住民に「ご協力ありがとうございます」「お疲れ様」など声掛けが少なかったように感じた。
85	避難退域時検査・簡易除染訓練	・訓練の編成表がなく、特にコントローラーの編成がよく分からない。 ・訓練全体を統制（コントロール）する者がいない。 ・プレイヤーとコントローラーの役割が混同している。
86	避難退域時検査・簡易除染訓練	・関根浜港では、汚染車両と非汚染車両の動線が同一であり、避難退域時検査において分ける意味が薄い。 ・今回の訓練は状況付与される車両台数が少なかったため混乱はなかったが、実際の場面を考えると、検査スペースが狭いと思われる。
87	避難退域時検査・簡易除染訓練	・今回の海路避難は海自艦船であり、自家用車の積載はできないものとして訓練を実施したが、関根浜港はフェリーも着岸可能である。自衛隊が借り上げる民間フェリーが着岸することは想定されておらず、車両の積載についても検討がなされていない。
88	避難退域時検査・簡易除染訓練	・災害想定がなされていない。 ・訓練開始時の状況が明確でない。 ・訓練シナリオが作成されておらず、あるべき姿が見えない。 ・状況付与がコントローラー全体で共有されていない。

番号	訓練項目	内容
89	避難退域時検査・簡易除染訓練	・マスコミは、本日どのような訓練を実施するのかわ確認した上で取材内容を判断することから、訓練詳細は訓練開始前に確認したい意向があるが、受付に医療薬務課員が配置されておらず、本庁に問合せることとなっていた。
90	避難退域時検査・簡易除染訓練	・避難者役車両の絶対数が不足しており、プレイヤーを見る限りあまり負荷はかかっておらず、時間を持て余したり、動作が緩慢になっていた。 ・実際には保管場所に保管されるべき車両が次の付与のため戻らなければならない、特に保管系の業務があまり訓練されなかった。
91	避難退域時検査・簡易除染訓練	・距離の問題で、一部コントローラー（避難者役車両出発地点）とは無線によるやり取りができなかった。 ・ロジ関係（受付、駐車場係等）に無線が配置されておらず、状況把握が難しかった。 ・訓練の開始、進展状況、終了などは無線でコントローラー全体に伝えるべき事項であるが、伝えられなかった。（無線を十分に活用できていなかった）
92	避難退域時検査・簡易除染訓練	・プレイヤーの役割分担、配置が医療薬務課が決定した状況で訓練を実施したが、実災害では現場に集まった人が役割を分担し業務に当たることから、訓練においても役割分担・人員配置はプレイヤー事項であると思われる。 ・今回のプレイヤーの配置・役割分担が必ずしも適切ではないと思われる。
93	避難退域時検査・簡易除染訓練	・避難退域時検査の役割分担をはじめとする様々な事項において、解釈も含め、関係者間で共通認識が得られていない。
94	避難退域時検査・簡易除染訓練	・流水を利用した除染を実施した場合に発生する廃水の、事業者による処理（引取り）を試行する予定であったが、陸上自衛隊が参加できなくなったため実施できなかった。
95	避難退域時検査・簡易除染訓練	・ゲート前に立ち、避難車両を検査場に誘導する誘導員として対応したが、どの車両が訓練車なのか判別がつかず、一般車両を検査場に誘導しようとしてしまった。訓練車両が判別できるよう、フロントガラスや側面に目印を付けてくれるとありがたい。
96	避難退域時検査・簡易除染訓練	・むつ市関根地区の避難退域時検査に係る避難住民役として、海路避難車両汚染あり＋身体汚染あり（1回目）及び身体汚染なし（2回目）に参加させていただきました。 ・1回目は、ゲートモニタ通過後、JAEA 体育館横の駐車場に車両を止め、車両汚染測定と除染及び住民役の汚染測定と汚染部の除去（5000cpm）になり、海路避難OKになりました。 ・2回目は、ゲートモニタ通過後、約 300m離れた車両保管エリアに車両を置き、カップとマスクを着用して約 300m離れた体育館に徒歩で戻り、汚染測定を受け、ND で海路避難OKになりました。 前日の説明会では2回目の対応を行うと聞いていましたが、体育館横の駐車場が渋滞していなければ、1回目の対応の方が、徒歩による行き来がなく（負担がないので）、状況に応じた臨機の対応も必要であると思いました。
97	避難退域時検査・簡易除染訓練	・県防災部局が県民に対し、日頃から防災計画や避難計画等についてもっと周知しておくことが重要。
98	避難退域時検査・簡易除染訓練	・住民を誘導する方を付けてほしい。

番号	訓練項目	内容
99	避難退域時検査・簡易除染訓練	・住民より、避難退域時検査における車両検査→代表検査→全員検査の流れが悪く、マニュアルの整備や事前の打合せ等を綿密に行っておくべきとのご意見があった。
100	避難退域時検査・簡易除染訓練	・避難退域時検査の住民誘導がスムーズにできていないとも指摘があった。
101	避難退域時検査・簡易除染訓練	・避難退域時検査及び簡易除染訓練に参加したが、会場であるJAEAむつセンター関根施設は広さ、体育館があるなど実施場所として適切と考えるが、一方で道を知らないとアクセスしづらい場所であったり、道路が狭隘になったりなど、周辺での渋滞や道路交通の錯そうが予想されるため、適切な誘導標識が必要と考える。
102	避難退域時検査・簡易除染訓練	・タイベックの靴カバーが破れてしまった方が多くみられました。
103	避難退域時検査・簡易除染訓練	・台風なのでやむを得ないのですが、自衛隊の参加がなくなったのは残念でした。
104	避難退域時検査・簡易除染訓練	・指示命令系統をもう少しはっきりしておいた方がよい
105	避難退域時検査・簡易除染訓練	・避難退域時検査・簡易除染訓練の中で、汚染検査後の車両誘導を実施した。訓練開始当初は、車両も少なくスムーズに車両誘導で来ていたが、後半から車両も多くなり、割り当てられた範囲外でも車両誘導を実施していたため結構大変だった。車両誘導員の人員を増やした方がいいと感じた。
106	避難退域時検査・簡易除染訓練	・今回、避難退域時検査及び簡易除染訓練に参加させていただき、訓練全体を見ることができました。今回の訓練想定では、UPZ 圏内で避難指示となった住民の方々の避難退域時検査（陸路避難/海路避難）でしたが、海路避難を想定した会場設定、訓練時間についても適切だったと感じました。 ・一方で住民指定検査及び住民確認検査するエリアが手狭に感じられ、少人数であれば対応可能ではあるものの、大型バス等による住民の検査では待機場所の問題や OIL4 超過した住民と OIL4 未満の住民の出口が同じなど、汚染が拡大する可能性も否定できないなどの課題等も確認されました。 ・車両保管エリアでは、誘導員、保管要員が海路避難者等の誘導を実施していましたが、誘導員は配置されているものの、保管要員同士の距離が遠く車両に乗車している住民がどの方向に向かうのか分からず迷う場面もあり、汚染あり／なしの車両エリアへの誘導標識などがあると住民の方々も迷うことなく各車両保管エリアに移動できると思われまます。
107	避難退域時検査・簡易除染訓練	・傷病者受入訓練と避難退域時検査訓練は別日がいいのではないかと思います。
108	避難退域時検査・簡易除染訓練	・避難住民や車両の汚染検査等に参加したい。
109	原子力災害医療訓練（通信）	・通信訓練の本部として参加。立ち上がりに時間を要するため、もう少し準備の時間があるといいと思います。衛星電話のコードの長さが足りず、本部（グループ）の場所から離れた場所に設置せざるを得ず、要員を一名つけなければなりません。アンテナを長くする等ハード面で解決できる部分ですので、改善すべきかと思います。
110	傷病者搬送訓練（六ヶ所）	・搬送元の活動後の汚染検査の実施主体、時期が不明。
111	傷病者搬送訓練（六ヶ所）	・搬送元が搬送先の調整、決定を行うことになっているが、大規模災害になるほど非現実的。

番号	訓練項目	内容
112	傷病者搬送訓練 (六ヶ所)	・引継拠点での情報ツール不足。
113	傷病者搬送訓練 (六ヶ所)	・大規模な災害ほど「応援」が必須だが、今回は他消防本部まで巻き込むことができなかった。
114	傷病者搬送訓練 (六ヶ所)	・搬送先の調整を含む「本部の動き」を明確にすることが課題。
115	傷病者搬送訓練 (六ヶ所)	・大石総合運動公園での傷病者受け渡し訓練に際し、下北消防・北部上北消防での訓練となったが、青森県消防相互応援協定及び緊急消防援助隊のことを考え、他の消防本部そして消防保安課と一緒に訓練実施が望ましい姿であるとする。
116	傷病者搬送訓練 (六ヶ所)	・大石総合運動公園での訓練について、基本的には管轄消防機関で資機材を搬送しなければならない。ただ、活用しているものが、原子力災害用としてのものではない。青森県で資機材配備が可能であれば検討していただきたい。
117	傷病者搬送訓練 (六ヶ所)	・日曜実施だと一般の方々が参加しやすいと思います。
118	傷病者搬送訓練 (六ヶ所)	・今回除染エリアの設定は、訓練開始前に設定したのですが、実施は訓練スタートと同時に時間がかかると感じた。
119	傷病者搬送訓練 (六ヶ所)	・評価者がいれば、さらに充実した訓練になると思います。
120	傷病者搬送訓練 (六ヶ所)	・会場の設定について、ドームテントに何をやる場所なのかを明記する、ゾーニング場所の明記等、誰でもわかるような目印が必要。
121	傷病者搬送訓練 (六ヶ所)	・傷病者の搬送について、救急診療の対応となる傷病を伴わない汚染者や、汚染の疑い事例の対応も含め、関係機関がどのように連携し、対応するかについて、関係部局・機関と議論を深めていく必要があるものと思います。
122	傷病者搬送訓練 (六ヶ所)	・今回は災害対応のためやむを得なかったが、やはり前段訓練があれば、もう少し訓練想定について理解が深まったと感じる。
123	傷病者搬送訓練 (六ヶ所)	・傷病者搬送訓練の際、救急隊の方々に訓練時の動線が伝わってなかった。
124	傷病者搬送訓練 (六ヶ所)	・大石総合運動公園での訓練について、おそらく初めてであろう二つの消防本部による連携訓練が行われたことは、今後の原子力災害時における効率的な救急活動を構築する上で、有意義な訓練であったといえる。
125	傷病者搬送訓練 (六ヶ所)	・大石総合運動公園での訓練については、傷病者引継に係るある程度の枠組みはできたと考える。また、今回省略した部分について、省略せずに実施できるようになれば良いと考える。その際は、曖昧にした部分を、各種計画・マニュアルにて明確に定める必要がある。訓練後の振り返りでも意見が出たが、サーベイ実施主体・除染実施主体、その他必要な作業を実施する主体を明らかにする必要があると考える。
126	傷病者搬送訓練 (六ヶ所)	・訓練実施で明らかになった部分として、「この資機材があれば・・・」が少なからずあると感じたので、計画を立てて整備していただければと思う。
127	傷病者搬送・受入訓練 (八戸市立市民病院)	・車両の誘導係と連携がうまく取れなかったため、改善したい。

番号	訓練項目	内容
128	傷病者搬送・受入訓練（八戸市立市民病院）	・搬送訓練は1回から急遽2回に変更となった。1回目は全体の流れがうまくいかず、戸惑う場面があったが2回目はスムーズに訓練できたので、可能であれば次回も複数回搬送訓練を行った方が効果的な訓練になると思う。
129	傷病者搬送・受入訓練（八戸市立市民病院）	・訓練実施日を休日にしてほしいとの意見が一部の訓練参加者から聞かれたが、困難な条件下で行うことで実際に近い状況を作れるため、問題はないと思う。
130	傷病者搬送・受入訓練（八戸市立市民病院）	・想定や実際の動きなど、直前まで不明な点が多く不安であった。
131	傷病者搬送・受入訓練（八戸市立市民病院）	・訓練場所が一般の来院者も自由に行き来できる状態は、安全管理上好ましくないと思う。
132	傷病者搬送・受入訓練（八戸市立市民病院）	・原子力災害医療訓練（傷病者搬送・受入訓練）に参加させていただいた。外のテントでは関係機関の音が聞き取りにくい時もあったので、拡声器を使うなどの対応が必要と感じた。
133	傷病者搬送・受入訓練（八戸市立市民病院）	・救急車や搬送車の汚染確認・被ばく確認を実施省略していたが、全て実施した方が良いと思う。
134	傷病者搬送・受入訓練（八戸市立市民病院）	・記録の取扱いについて、記載した情報については、どのように発信して、どのようにまとめるか等検討願いたい。
135	傷病者搬送・受入訓練（八戸市立市民病院）	・放射線管理資機材はどのくらい必要かなどの数量の検討願いたい。
136	傷病者搬送・受入訓練（八戸市立市民病院）	・放射線危険区域の設定や動線を含めて、除染のテントが離れているため、汚染拡大防止のため検討願いたい。
137	傷病者搬送・受入訓練（八戸市立市民病院）	・傷病者受入訓練と避難退域時検査訓練は別日がいいのではないかとと思う。
138	傷病者搬送・受入訓練（八戸市立市民病院）	・実際に即した、傷病者の状況パターンを複数設定して、緊迫感のある訓練になったと思います。
139	傷病者搬送・受入訓練（八戸市立市民病院）	・細かなシナリオを事前に把握したうえで、訓練に臨みたい。
140	傷病者搬送・受入訓練（八戸市立市民病院）	・当初予定されていたヘリからの傷病者搬送訓練を次回実施してもらいたい。（自衛隊ヘリ、防災ヘリ、ドクヘリ等との連携も）
141	傷病者搬送・受入訓練（八戸市立市民病院）	・今回、原子力防災訓練に初めて参加しましたが、万が一災害が発生した際、どのような対応をするのか、大変、参考となった。実災害の場合住民の方々の避難の支援にあたると思うため、避難する方々へ傷病者が発生した場合、どのような対応があるのか説明できるため、非常に大きな成果を得たと思います。

番号	訓練項目	内容
142	傷病者搬送・受入訓練（八戸市立市民病院）	・原子力災害医療訓練（傷病者搬送・受入訓練）についてですが、早めに事前情報がいただけると、訓練担当者として傷病者役の方々に説明しやすかった。
143	傷病者搬送・受入訓練（八戸市立市民病院）	・訓練実施日、時間、会場等については適切であったと感じました。 ・想定については、会場到着後5分後に放射性物質の放出が始まり、それまでの対応の進捗想定等シナリオが明確でなかったため、対応が煩雑になってしまいました。（午後の部開始時も同様です）状況の付与を的確に実施していただければより良い訓練になると思います。
144	緊急時モニタリング訓練	・無線の取扱いに不慣れな所が見られた。
145	緊急時モニタリング訓練	・試料採取地点が分からず、採取するまで時間がかかった。
146	緊急時モニタリング訓練	・モニタリングチームはタイベック及びゴム手袋を着用しているため、スマートフォンを操作することができなかった。
147	緊急時モニタリング訓練	・携帯電話、衛星電話、無線、ラミセスの掲示板など複数の連絡方法があるが、有効に活用されているとは思えない。
148	緊急時モニタリング訓練	・モニタリングチームの安全確保について検討が不足している（試料採取時の避難等）。
149	緊急時モニタリング訓練	・モニタリング本部の訓練にはプレイヤーしかおらず、コントローラーがいなかったため、道路やプラント情報が入手できなかった。
150	緊急時モニタリング訓練	・今回の訓練は、分析・測定班と訓練が切り離されたものであり、情報伝達がうまく行われるかの検証ができなかったことから、同日同時時間帯に分析・測定班との連携も実施することで、良い訓練になると感じました。
151	緊急時モニタリング訓練	・48時間スキップ後の混乱について、休息後に付与情報をしっかり与えてほしかった。
152	緊急時モニタリング訓練	・付与情報を作成する担当は、上席、要員含め事前に検討すべきと思う。
153	緊急時モニタリング訓練	・新クロノロの使い方を事前にもっと知っておけばよりスムーズに出来たと思う。
154	緊急時モニタリング訓練	・人手が足りないのでは。
155	緊急時モニタリング訓練	・コントローラからの付与情報がよく分からないのがあった。
156	緊急時モニタリング訓練	・想定に無理があった。放出開始は11時ではなく、もう少し遅らせてほしい。
157	緊急時モニタリング訓練	・実際の要員の割り当てと違うチームであったこと。何かあった時に参集されても実際の要員として動ける気がしない。動きが分からない。
158	緊急時モニタリング訓練	・指示書の採水場所に住所を付けると良かったと思う。
159	その他（オフサイトセンター運営訓練）	・参集するところからの訓練も必要である。
160	その他（オフサイトセンター運営訓練）	・オフサイトセンターの運営訓練の実施。
161	その他（オフサイトセンター運営訓練）	・東通地域の原子力防災専門官が、国の原子力総合防災訓練への参加を優先し、当該地域を対象とした訓練へ参加しない状況には疑問。

番号	訓練項目	内容
162	その他（オフサイトセンター運営訓練）	・今回図上訓練は中止となったが、今後招集から開始する訓練想定も必要と思われる。移動時間等もあるため、どの時点で人数不足が生じ、そこは誰が対応するのか等々課題が見つかると思う。毎年同じ参加者と限らないため、参集してからの訓練も必要と思う。
163	その他（オフサイトセンター運営訓練）	・今年度中止となったオフサイトセンターでの訓練を、可能であれば日程を改めて開催して欲しい。もしくは、予定していた訓練の詳細等が分かる資料を提供して欲しい。
164	その他（オフサイトセンター運営訓練）	・結果として中止となったため影響はなかったものの、国に対し、訓練への要員派遣に係る支援要請をしたが、派遣の可否も含め回答を得られなかったのは残念。
165	その他（オフサイトセンター運営訓練）	・事故現地対策本部等の各機能班は、国の現地組織としての業務を実施するものであり、当該要員を対象とした訓練は国が企画・実施すべき。
166	その他（オフサイトセンター運営訓練）	・各機能班の業務マニュアルが作成されていないため、あらかじめ要員を指定しても業務に関する事前研修・教育ができない。
167	その他（展示訓練）	・来年度も避難所における「電気通信設備応急復旧訓練」（ポータブル衛星車、移動電源車の展示、171災害用伝言ダイヤルの実体験）等で参加したいと思いますのでよろしく願いいたします。
168	その他（訓練視察）	・東通原子力発電所の訓練の視察など。
169	その他（訓練視察）	・事業者が実施している訓練の参観。
170	その他（研修）	・消防吏員に対するサーベイ。
171	その他（研修）	・自衛隊の実施する除染方法を見学したい。
172	その他（研修）	・防護服を着脱する訓練。